



夏でも川の水が冷たいのはなぜ

雨水が地下にしみこむ

山に雨が降ると、雨の多くは地表を流れ、川の水になりますが、一部は地下にしみこみます。地下にしみこんだ水は、水を通しやすい地層の中を、下へ下へと、しみこんでいきます。そして、水を通しにくい地層の上にたまります。これを地下水といいます。水がしみこんでいく土の中で、水は木の根などに吸われたり、土のすき間にたくわえられたりします。

地下水は、夏でも温度が低い

地下水は、がけや谷などの地層が切れている所から、わき水になって出てきます。これが地面に出て、水の流れになって川の水になったり、川の水と合流したりします。わき水は、地下から出てくるので、夏のように気温が高いときでも、水の温度は、いつも一定に保たれていて、低くなっています。みなさんは、夏に川の 上流 へ行って、川の水に手を入れたときに、冷たく感じたことがあるでしょう。

流れている水は、あたたまりにくい

水にはあたたまりにくく、さめにくい、という性質があります。まわりの気温が高いときでも、水は土のように、あたたまらないのです。同じ水でも、小さな池の水などは、まわりの気温が高くなると、温度が高くなります。しかし、川の水はふつう、いつも流れているので、水の温度はあまり高くなりません。

(監修・国司 真)

